

# 出生後の児体温の変動について

産科分娩部 発表者 百瀬 妙子

池野 位子・和田 宣子・山口 文子・森 艶美  
中嶋 まさ子・松本 あつ子・村田 和子・原田 まさみ  
小沢 由美子・原田 由紀・菅 めぐみ・久保田 裕子  
桜井 恵理子・岩崎 浜子

## I はじめに

新生児の体温は、出生直後母体温に等しいかやや高めであるが、出生後1～2時間で最低となるといわれている。当科では、従来より生後2時間に体温測定を行っているが、35.5℃～37.2℃と値にかなりのばらつきがみられた。

昨年、生後2時間の体温が35.2℃で、その後36.2℃以上に上昇せず、哺乳力不良、低血糖をきたした症例を経験した。そこで、出生直後から2時間までの体温変動と、新生児処置の及ぼす影響について調べてみようとする。と取り組んだ。

## II 研究方法

### 1. 研究期間

昭和59年1月1日より5月31日

### 2. 対象

研究期間中出生した2500g以上の正常児アプガールスコア1分後8点以上72例

### 3. 方法

- ① 従来行われている新生児の受け入れ手順による場合の体温測定：52例（資料1参照）
- ② 出生後直ちにインファントウォーマ上で清拭・児計測・着衣した場合の体温測定：20例

### 4. 測定時期

出生直後・体重測定後・沐浴後・児計測・着衣終了後・母と面会后・出生2時間後

### 5. 測定方法

直腸検温（直腸計2cm挿入，1分以上測定）

### 6. 環境条件・手順

- 分娩室の温度は24℃～25℃，湿度55～60%。
- 沐浴の湯の温度は40℃で，沐浴は3分以内。
- コットは出生前30分より保温マットで暖め，児の計測場所も保温マット使用。
- 新生児室での保温は保温マット，バスタオル2枚，毛布1枚使用。
- 衣類は安全に留意し，充分点検する。
- 母との面会は，分娩台の上にて10分ぐらい母子の接触をはかる。

## III 研究結果

### 1. 方法①について（図1参照）

羊水吸引、臍帯切断などの処置後、児をコットに移したときは、37.2℃で体温測定までに4分を要した。これを出生直後の体温とする。

体重測定終了後まで8分。体温は36.8℃、これは出生直後より0.4℃の下降であった。

沐浴終了まで12分、体温は36.8℃で沐浴前後の体温変動は認められなかった。

児計測、着衣終了まで20分、体温は36.5℃で出生直後より0.7℃の下降であった。

母子の面会終了まで52分、体温は36.3℃で出生直後より0.9℃の下降を示した。

出生2時間後は36.8℃であった。なお、母子の面会終了後の体温は最低を示した。

## 2. 方法②について（図2参照）

出生直後は37.2℃で方法①と同じであった。

体重測定まで8分、体温は36.9℃で出生直後より0.3℃の下降があった。

清拭・児計測・着衣終了まで22分。体温は36.5℃で出生直後より0.7℃の下降がみられた。

母子の面会終了まで45分、体温は36.8℃で、出生2時間後の体温は37.0℃であった。

児計測、着衣終了後の体温は最低を示し、母子の面会終了後は上昇した。

なお、図1、図2における体温変動は、特に児計測、着衣終了までについては、同じような傾向を示した。

## IV 考察

新生児の体温は、出生後1～2時間で最低を示し、体温下降は2～3℃とされているが、直腸温は37.0℃を保つようにいわれている。当科でも、羊水及び血液をすみやかに拭きとり、乾燥したリネンに児をくるむ、また保温マットを使用するなど保温に努力しているが、今回の研究では、体温下降は平均0.9℃で、最も下降したのもでも1.8℃であった。なお、最も下降する時期は母親との面会后であり、手順では10分ぐらいの面会とされているのが、実際には30分以上を要した。

母と子の分娩直後の面会は、母子のきずなを深め母乳確立の意味でも重要なことである。分娩を終了した母親が児を抱き、話しかけ、お乳を含ませる。そんな満ち足りた表情をみると、保温のため面会をきりあげることはできかねる。そこで、勉強会のなかで面会方法について話し合い、これまでは、バスタオルでくるんだ児を母親の腕に抱いてもらっていたが、これを母親の横に保温マットを置き、その上に児を寝かせ抱いてもらうよう手順を決め、母子のきずなをより深められるよう援助した。

なお、インファントウォーマ上で処置後の面会は、手順統一後であり、全例保温マットを用い、面会終了後の体温は上昇を示し、面会中の体温下降を少しでも防ぐことができた。

現在、新生児処置をインファントウォーマ上で行う施設の報告を多く聞くが、正常児では保温に十分留意すれば、従来の方法でも問題はないと考える。

今後より効果的なインファントウォーマ、保温マットの使用方法など検討を行っていきたい。

## V おわりに

生後2時間の体温変動を調べたことにより、その変化を実際に目でみることができ、新生児の保温に対する意識づけができた。

今後も、新生児看護に努めていきたい。

この研究に際し御協力頂いた方々に深く感謝致します。

<参考文献>

1. 安達寿夫：新生児学入門，医学書院 1969
2. 小川次郎：発達小児学，1978
3. 島田信宏：写真でみる分娩後2時間の母児ケア
4. 竹内徹，柏木哲夫訳：母と子のきずな，医学書院 1980
5. 明沢京子：新生児初期体温下降防止の一考察，母性衛生，ISSN 0388-1512，Mar. 1983
6. 佐藤昇子：特集出生直後の新生児ケア，ペリネイタルケア，メディカ出版，1984 第3巻第3号
7. 野村紀子：母子相互作用，分娩直後の新生児に対する母親の行動，周産期医学，第13巻第12号 1983

資料1

出生児の取り扱い手順（A，分娩介助者，B，新生児係）

- ① 児娩出後，Aは直ちに羊水を吸引する。次に臍帯を切断し，羊水，血液を拭きながら，全身状態を観察する。
- ② 保温マットで暖めたコットに児を移す。
- ③ 体重測定（以後Bによる）
- ④ 沐浴，または清拭。
- ⑤ 全身の観察，計測。
- ⑥ 臍帯の処置，および着衣。
- ⑦ 点眼
- ⑧ ネームバンドの着用と足底部への母の氏名記入。
- ⑨ 母子の面会
- ⑩ 新生児室入室

資料2

図1. 方法①における児体温の変動

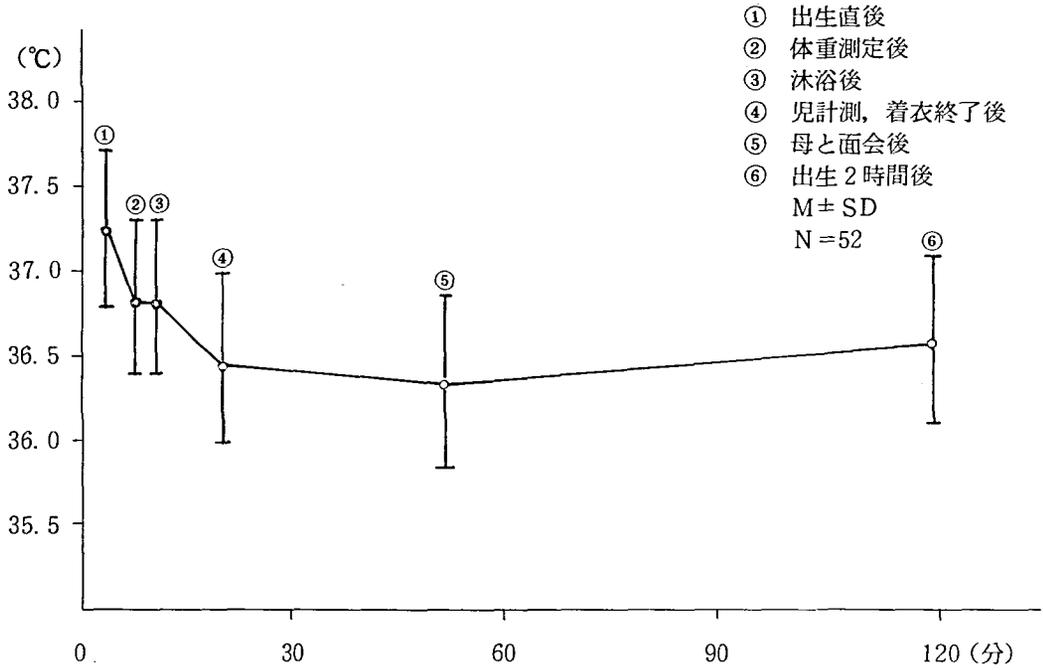


図2. 方法②における児体温の変動

